

2023年3月期（第39期） 第3四半期 決算補足資料



2023年1月31日

テクマトリックス株式会社（コード：3762）



- ◆ 2021年3月期の有価証券報告書より、国際財務報告基準（IFRS）を適用しております。
- ◆ 本資料に記載される業績等については、原則すべてIFRSベースで記載をしております。
ただし、2019年3月期（第36期）以前の業績等について記載がある部分については、それらは日本基準で記載をしております。



1. 第3四半期 業績報告



- 売上収益、営業利益、税引前利益は**過去最高**を記録。

(百万円)

| | FY2021 3Q | FY2022 3Q | 前年同期比 | |
|-----------------------|-----------------|------------------------|--------|-------------------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上収益 | 25,098 | 32,285 | +7,187 | +28.6% |
| 営業利益 (営業利益率) | 2,416 (9.6%) | 2,828 (9.2%) | +412 | +17.1% (△0.4P) |
| 税引前利益 | 2,404 | 2,807 | +403 | +16.8% |
| 親会社の所有者に 帰属する四半期利益 | 1,569 | 1,577 | +7 | +0.5% |



2023年度 3Q累計 連結業績 (セグメント別)

(百万円)

| | FY2021 3Q | | | FY2022 3Q | | | 前年同期比 | |
|-------------|---------------|---------------|-------------|---------------|---------------|-------------|---------------|---------------|
| | 実績 | 構成比 | 利益率 | 実績 | 構成比 | 利益率 | 増減額 | 増減率 |
| 売上収益 | 25,098 | 100.0% | | 32,285 | 100.0% | | +7,187 | +28.6% |
| 情報基盤 | 17,604 | 70.1% | | 21,017 | 65.1% | | +3,412 | +19.4% |
| アプリ・サ | 5,193 | 20.7% | | 5,151 | 16.0% | | △42 | △0.8% |
| 医療システム | 2,299 | 9.2% | | 6,116 | 18.9% | | +3,816 | +165.9% |
| 営業利益 | 2,416 | 100.0% | 9.6% | 2,828 | 100.0% | 8.8% | +412 | +17.1% |
| 情報基盤 | 2,076 | 85.9% | 11.8% | 1,955 | 69.1% | 9.3% | △120 | △5.8% |
| アプリ・サ | △50 | △2.0% | △1.0% | △165 | △5.9% | △3.2% | △115 | △231.3% |
| 医療システム | 389 | 16.1% | 17.0% | 1,038 | 36.7% | 17.0% | +649 | +166.6% |

※アプリケーション・サービス事業のFY2021 3Qは医療分野の数値を含まず。

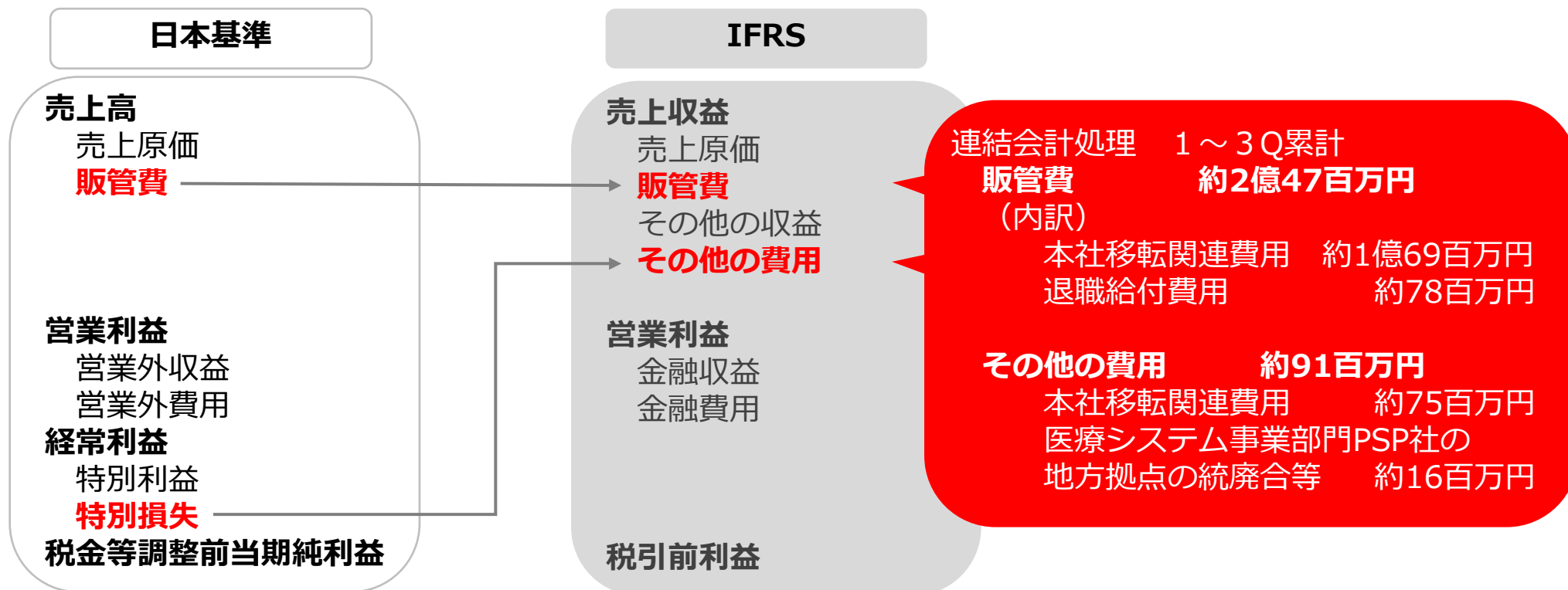
※医療システム事業部門は、FY2022よりアプリケーション・サービス事業部門より分離独立。

※医療システム事業のFY2021 3Qの実績は旧NOBORI, 医知悟, A-Lineの合計数値。FY2022 3Qの実績は新生PSP, 医知悟, A-lineの合計数値。



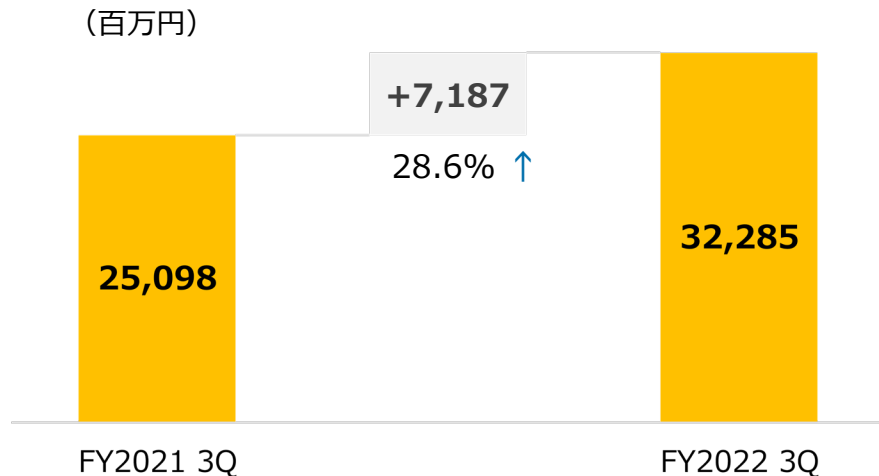
特殊要因として合計約3億39百万円を計上（1Q～3Q累計）。

- 「販売費及び一般管理費」及び「その他の費用」として本社移転関連費用を約2億45百万円計上**（予算に織り込み済み）。
 - 運送費や廃棄費用、新オフィス造作時における二重家賃を計上。
（内訳：1Q 計上なし、2Q 約84百万円、3Q 約1億60百万円）
- 「販売費及び一般管理費」として退職給付費用を約78百万円計上。**
 - 新人事制度の導入による退職給付費用の引当不足の計上等（内訳：1Q 計上なし、2Q 約78百万円、3Q 計上なし）
- 「その他の費用」として医療システム事業部門PSP社の地方拠点の統廃合による減損損失を約16百万円計上。**
 - （内訳：1Q 計上なし、2Q 約15百万円、3Q 約1百万円）

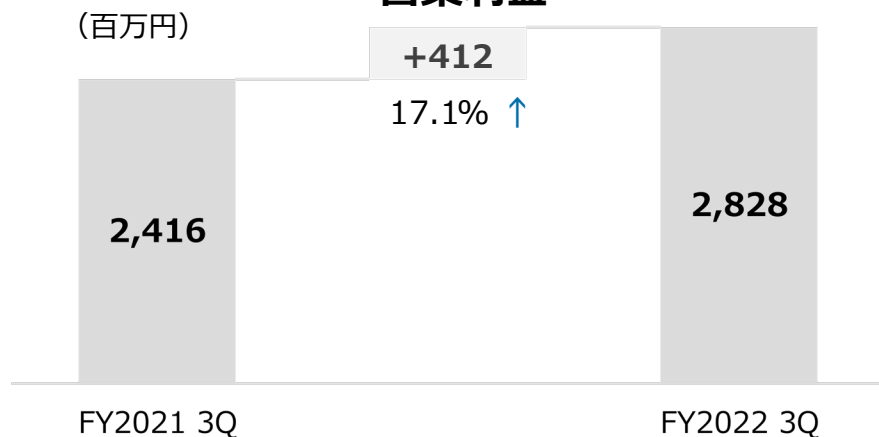




売上収益



営業利益



・共通：

オフィス移転費用等の計上が営業利益に影響（▲3億39百万円）

・情報基盤事業：

クラウド型のセキュリティ対策製品の需要が引き続き拡大。

・アプリケーション・サービス事業：

- SE分野は、受注が好調だがサブスクリプション化が進展し
売上収益・営業利益の計上が繰延傾向。

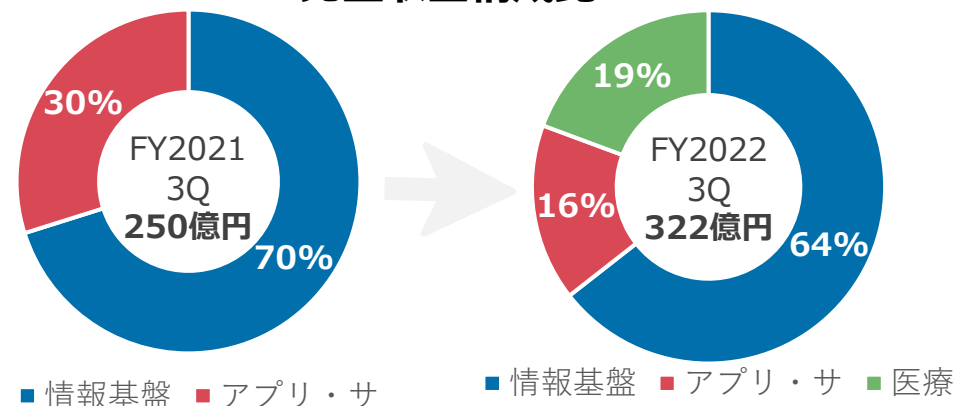
- 教育分野は、増員による先行投資を積極的に実施。

・医療システム事業：

事業統合したPSPの医用画像管理システム (PACS)は順調。
クラウドシフトはこれから。

※事業部名略称 ソフトウェア品質保証：SE

売上収益構成比



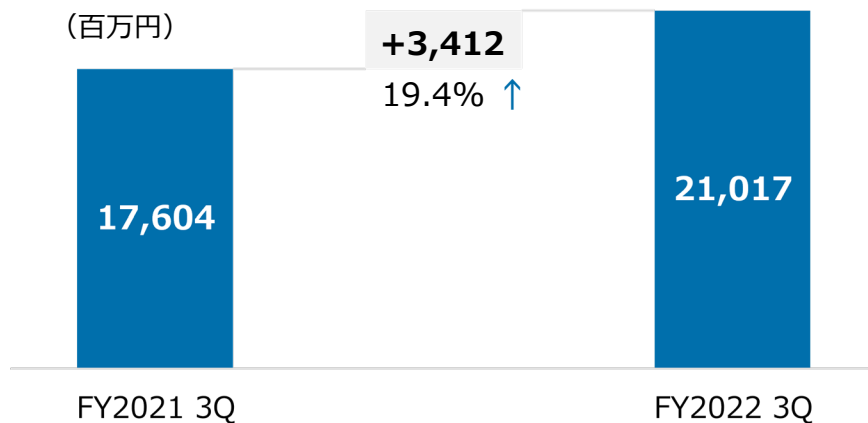
※アプリケーション・サービス事業のFY2021 3Qは医療分野の数値を含まず。

※FY2022より医療システム事業部門はアプリケーション・サービス事業部門より分離独立。

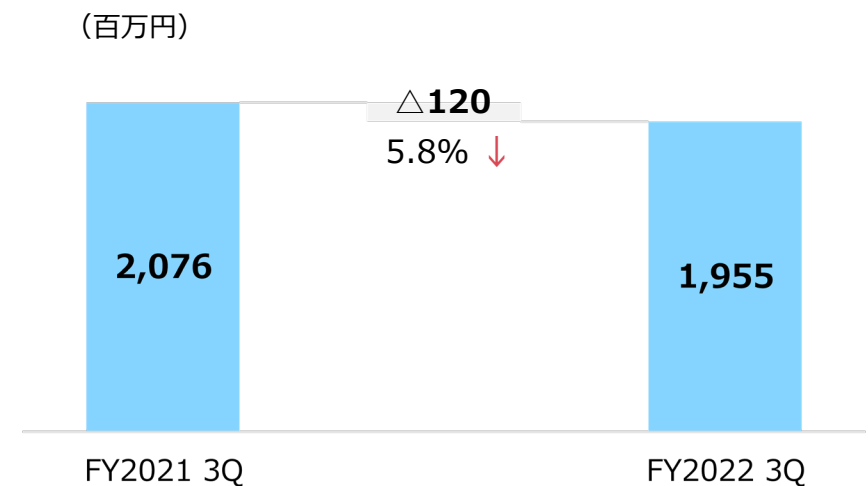
※医療システム事業のFY2021 3Qの実績は旧NOBORI, 医知悟, A-Lineの合計数値。FY2022 3Qの実績は新生PSP, 医知悟, A-lineの合計数値。



売上収益



営業利益



売上収益は**過去最高**を記録。営業利益は前年比で減少。

- 売上収益

- (+) サブスクリプション型のクラウド型セキュリティ対策製品の引合いが引き続き好調。
- (-) サブスクリプション化の進展により繰延傾向。
- (-) 半導体不足による納期遅延による影響。

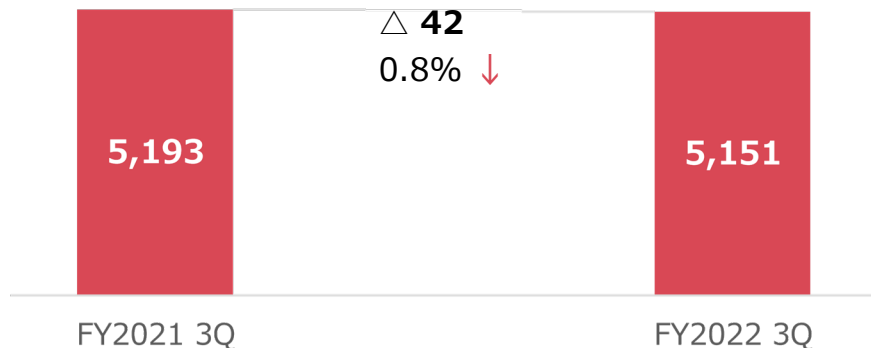
- 営業利益

- (-) 円安による為替の影響、人件費・販管費の拡大
- (-) 案件の大型化による採算性の低下
- (-) 新規事業としてのクラウドネイティブ活用ソリューションへの投資。



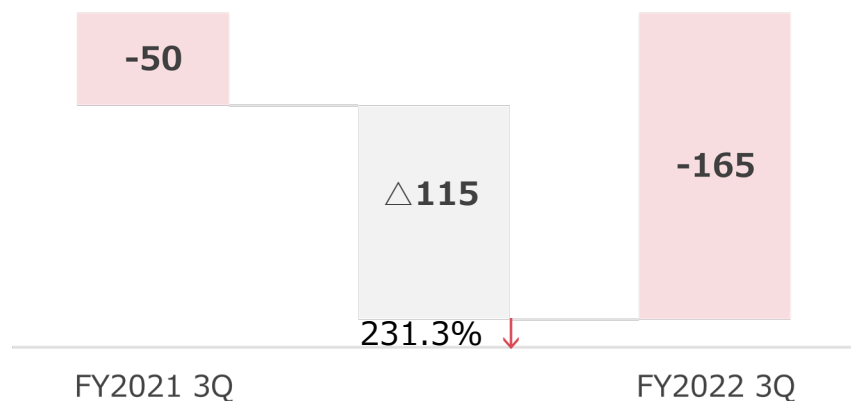
売上収益

(百万円)



営業利益

(百万円)



売上収益・営業利益は前年比で減少。

売上収益

- (+) 企業向けシステムや組込ソフトウェアの品質を担保するテストツールの需要が好調。(SE)
- (+) 「ツムギノ (tsumugino)」の導入校数が拡大し売上伸長。(教育)
- (-) サブスクリプション化の進展により繰延傾向。(CRM、SE)
- (-) 受注時期の遅れにより前年比で減少。(CRM、BS)

営業利益

- (-) 金融系システムのプロジェクトにおいて不採算案件の対応を継続。(BS)
- (-) 増員による先行投資を積極的に実施。(教育)

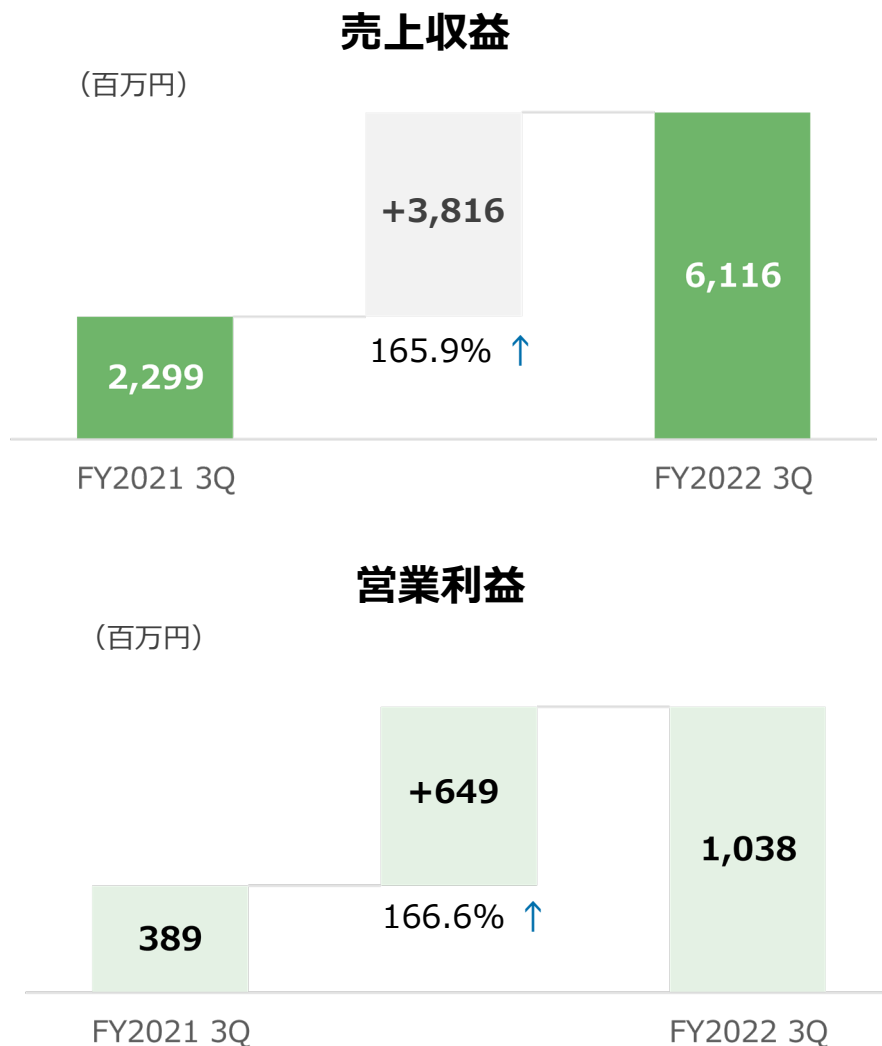
※事業部名略称

ソフトウェア品質保証 : SE

ビジネスソリューション : BS

※アプリケーション・サービス事業のFY2021 3Qは医療分野の数値を含まず。

※FY2022より医療システム事業部門はアプリケーション・サービス事業部門より分離独立。



売上収益・営業利益は前年比で増加。

売上収益

- (+) 医療情報クラウドサービス・PHRアプリ「NOBORI」が順調。
- (+) 事業統合したPSPの医用画像管理システム (PACS)は順調。
クラウドシフトはこれから。

営業利益

- (-) 地方拠点の統廃合による減損損失が発生 (▲16百万円)。

* 医療システム事業部門は、FY2022よりアプリケーション・サービス事業部門より分離独立。

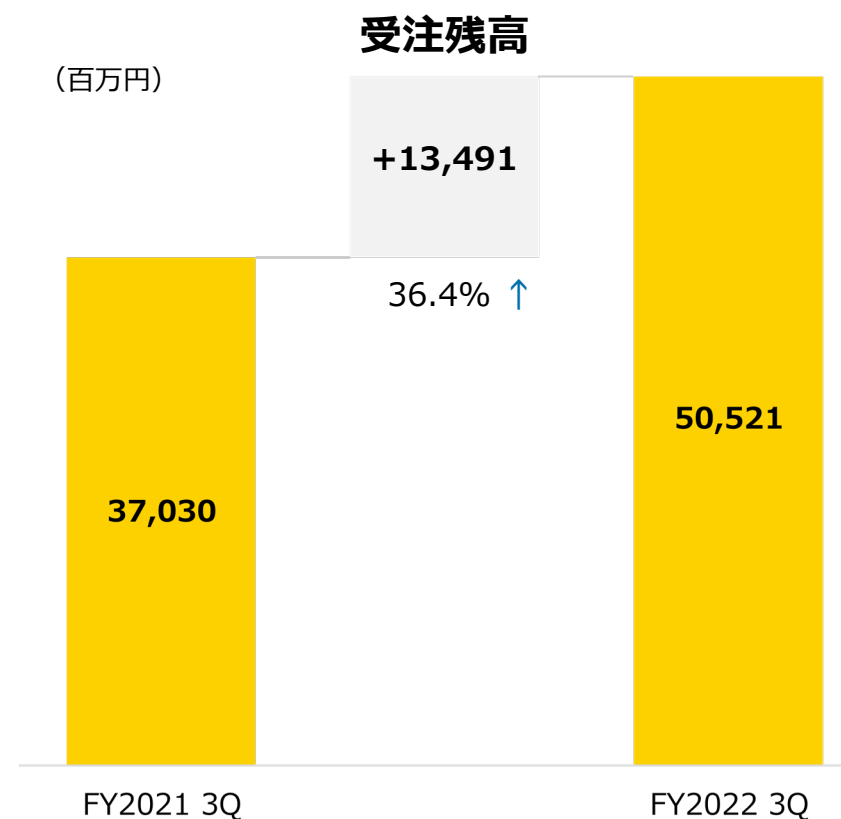
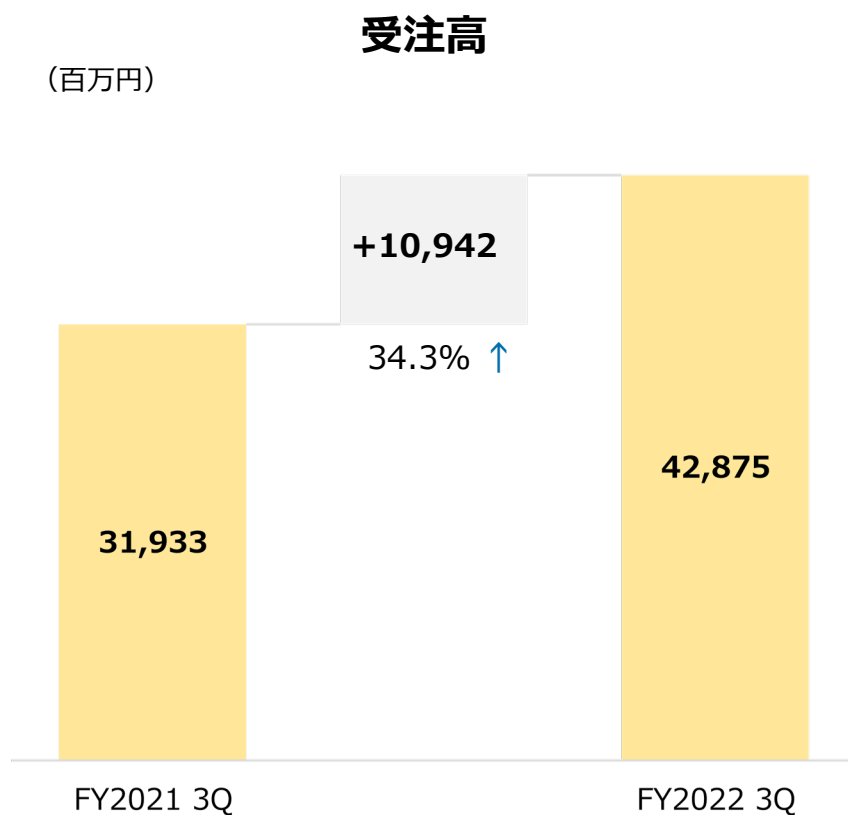
※医療システム事業のFY2021 3Qの実績は旧NOBORI, 医知悟, A-Lineの合計数値。FY2022 3Qの実績は新生PSP, 医知悟, A-lineの合計数値。



2023年度 3Q累計 受注高と受注残高（連結）

- 連結受注高・連結受注残高は、前年比で情報基盤事業を中心に増加。

全社合計

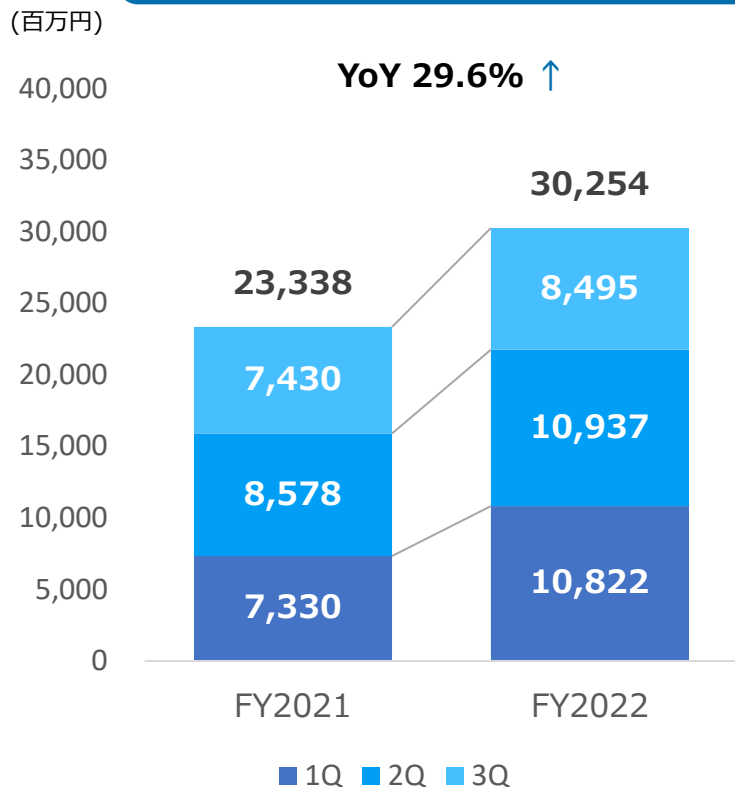




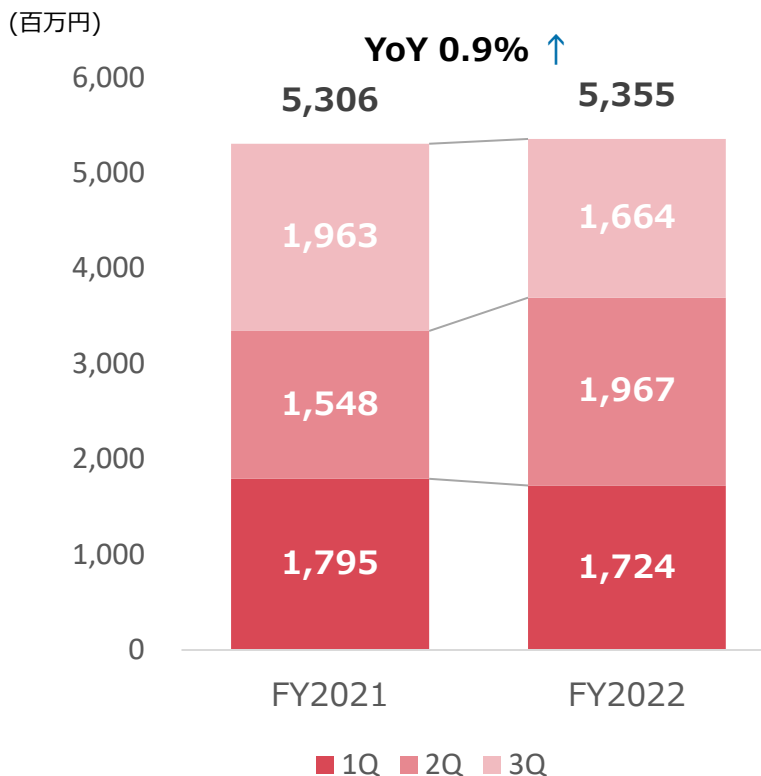
2023年度 セグメント別 受注高 (連結)

- 情報基盤事業：サブスクリプション型のクラウド型セキュリティ対策製品の引合いが引き続き好調。
- アプリケーション・サービス事業：SE分野を中心に好調。
- 医療システム事業：医用画像管理システム（PACS）の受注が順調。

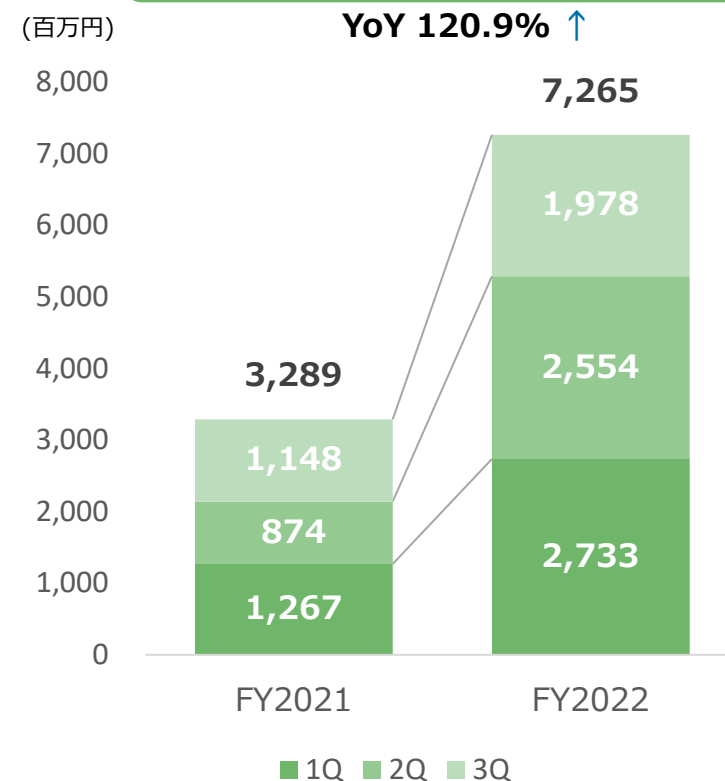
情報基盤事業



アプリケーション・サービス事業



医療システム事業



※アプリケーション・サービス事業のFY2021 3Qは医療分野の数値を含まず。

※FY2022より医療システム事業部門はアプリケーション・サービス事業部門より分離独立。

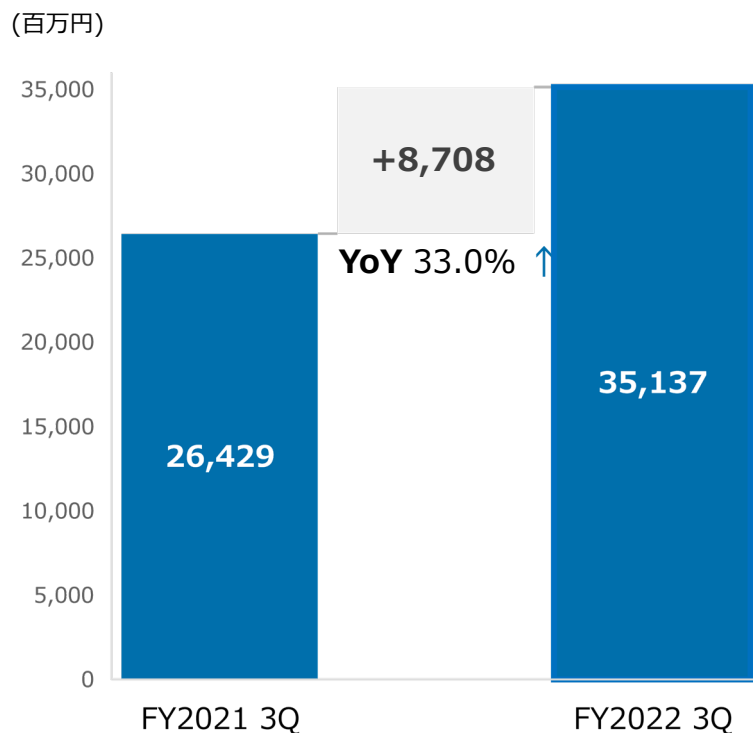
※医療システム事業のFY2021 3Qの実績は旧NOBORI, 医知悟, A-Lineの合計数値。FY2022 3Qの実績は新生PSP, 医知悟, A-lineの合計数値。



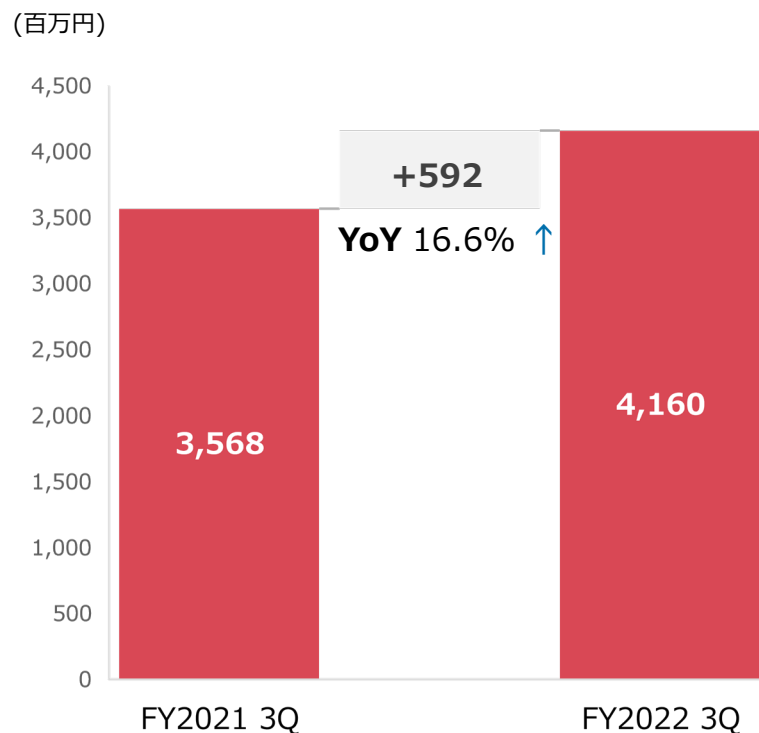
2023年度 3Q セグメント別 受注残高（連結）

- サブスクリプション化（ストックビジネス強化）により、増加傾向。

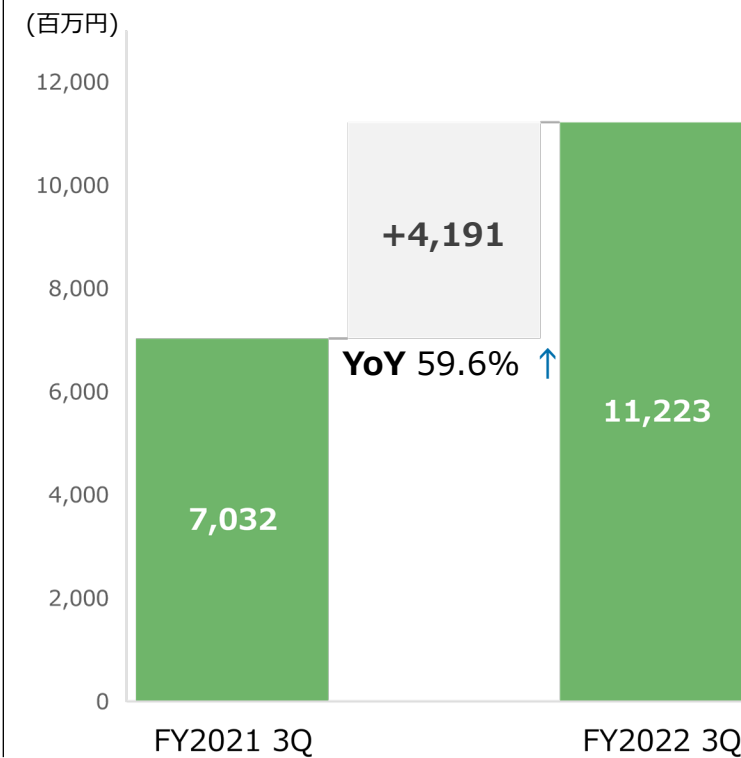
情報基盤事業



アプリケーション・サービス事業



医療システム事業



※アプリケーション・サービス事業のFY2021 3Qは医療分野の数値を含まず。

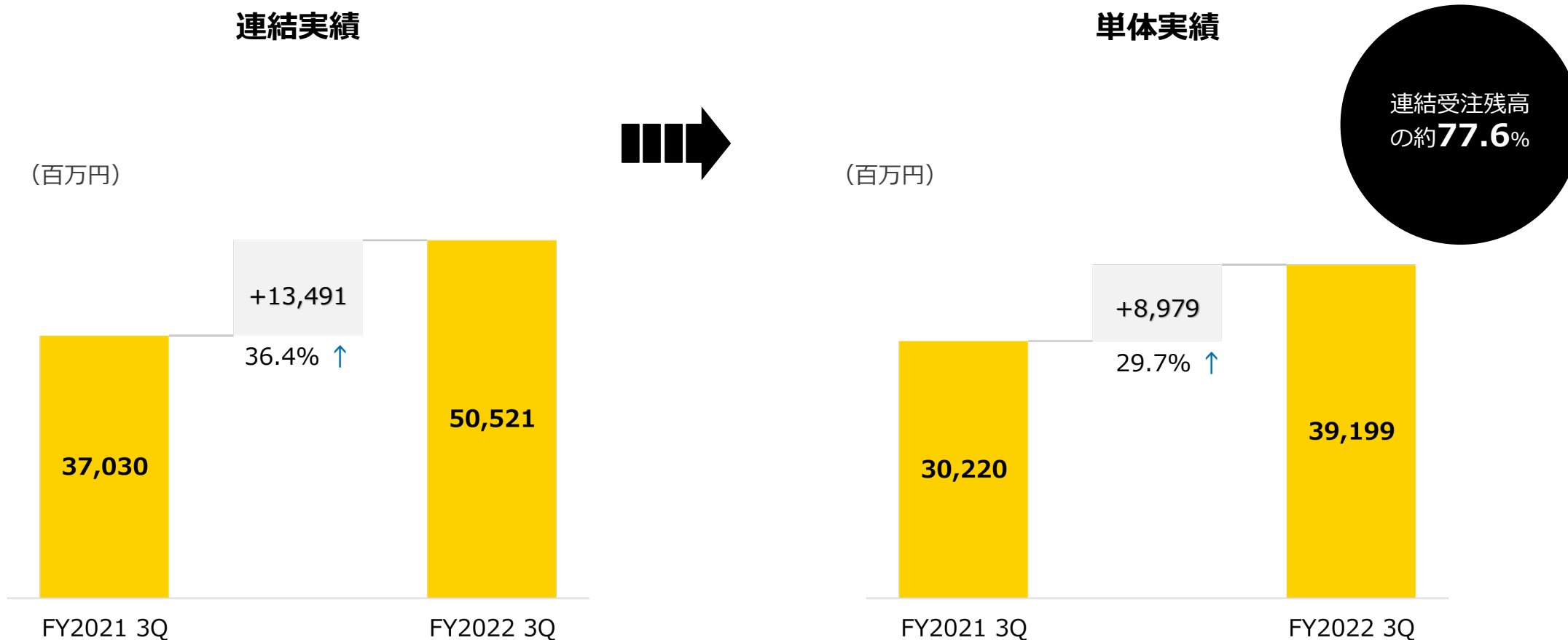
※FY2022より医療システム事業部門はアプリケーション・サービス事業部門より分離独立。

※医療システム事業のFY2021 3Qの実績は旧NOBORI, 医知悟, A-Lineの合計数値。FY2022 3Qの実績は新生PSP, 医知悟, A-lineの合計数値。



2023年度 3Q受注残高の状況（単体）

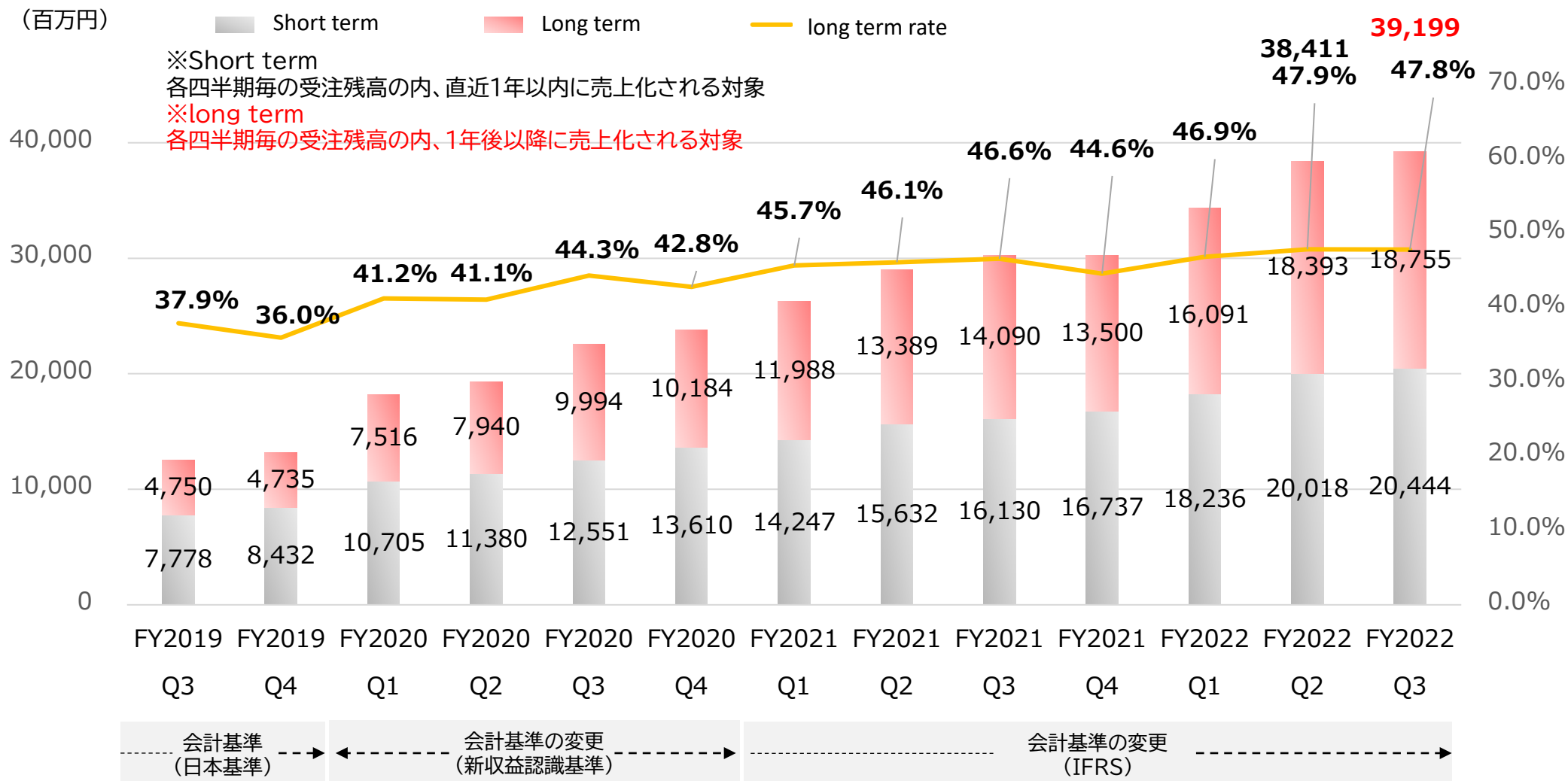
- テクマトリックス単体での受注残高の状況は以下のとおりです。





2023年度 3Q時点 受注残高（単体全体）

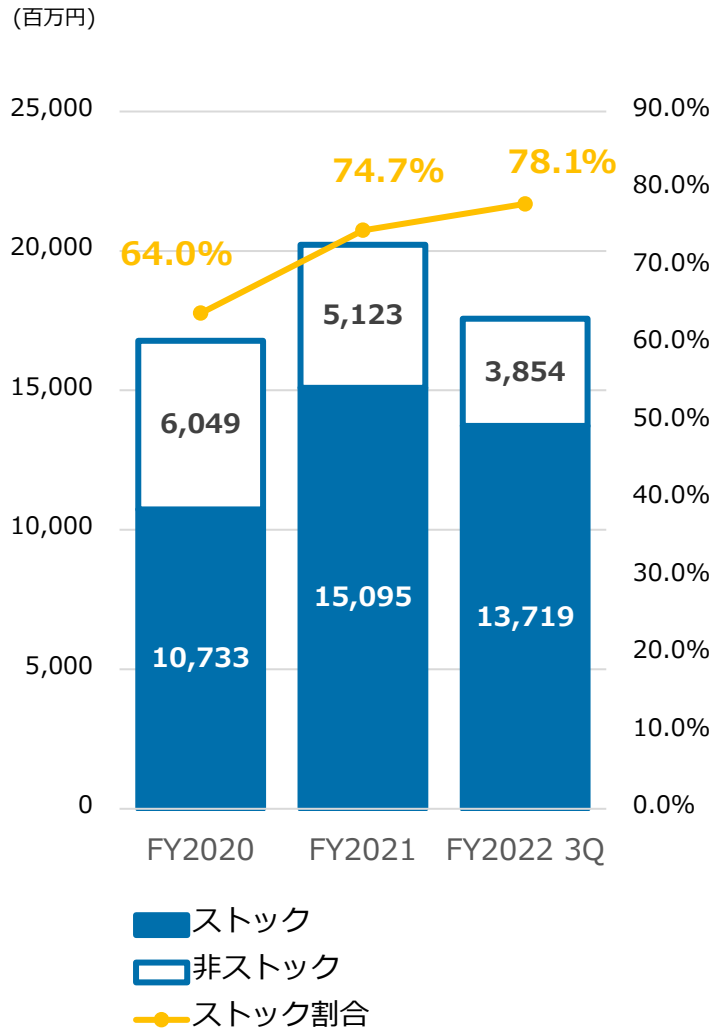
- テクマトリックス単体での受注残高の内訳は以下のとおりです。



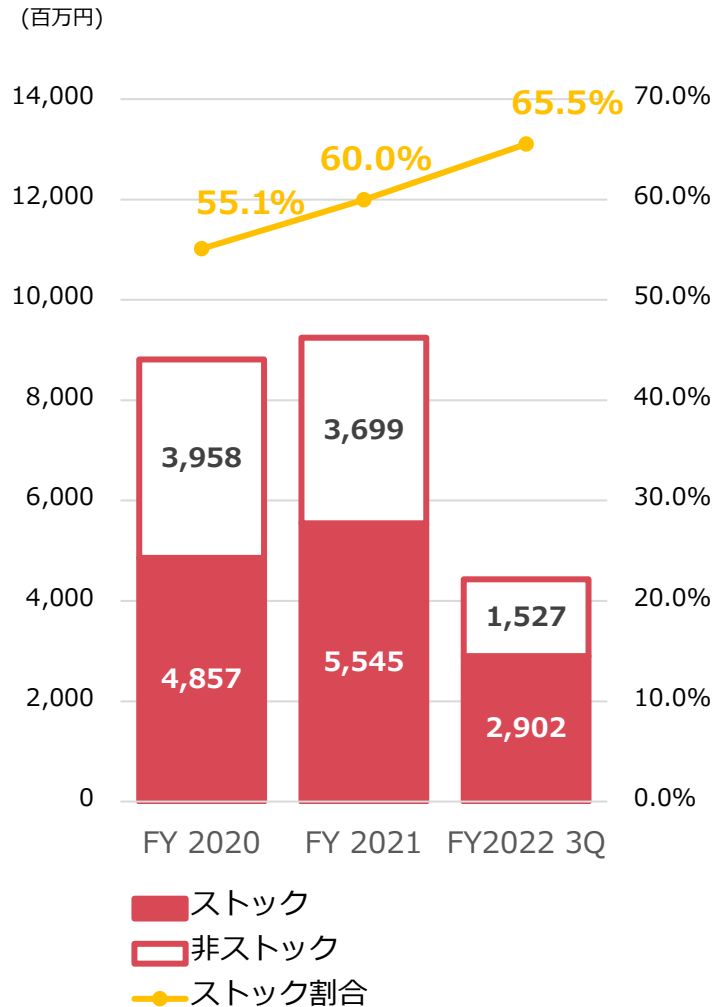


ストック比率の進捗状況（単体、PSP株式会社）

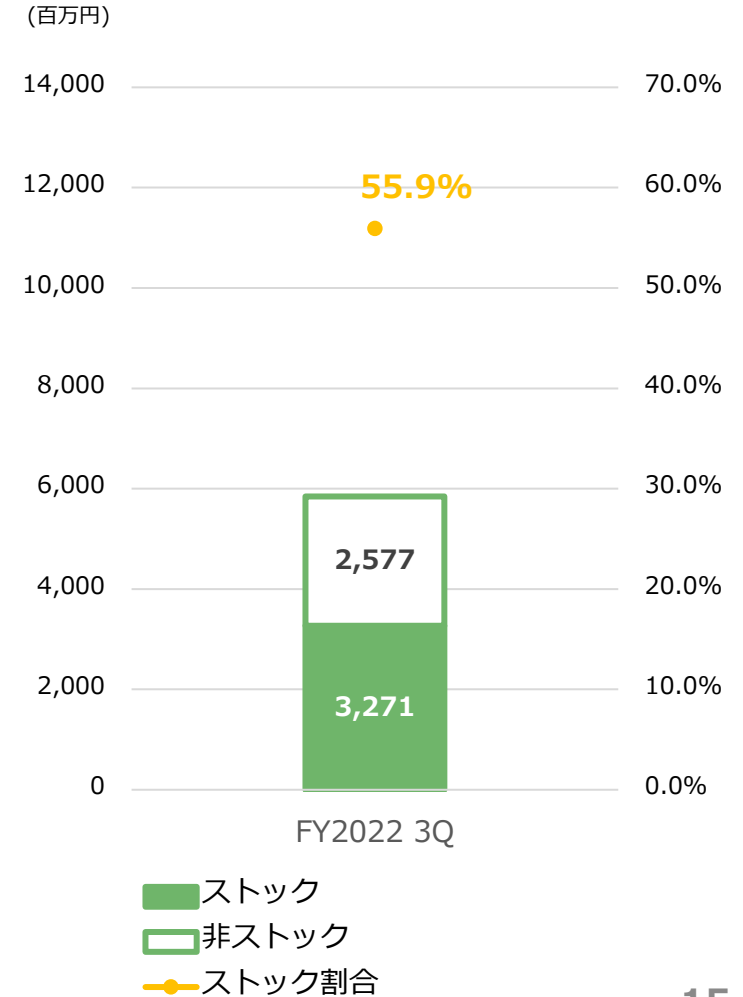
情報基盤事業



アプリケーション・サービス事業



医療システム事業





2. 2023年3月期 連結業績予想



上期の業績や外部環境を踏まえ、FY2022 5月に見直した業績計画を据え置き

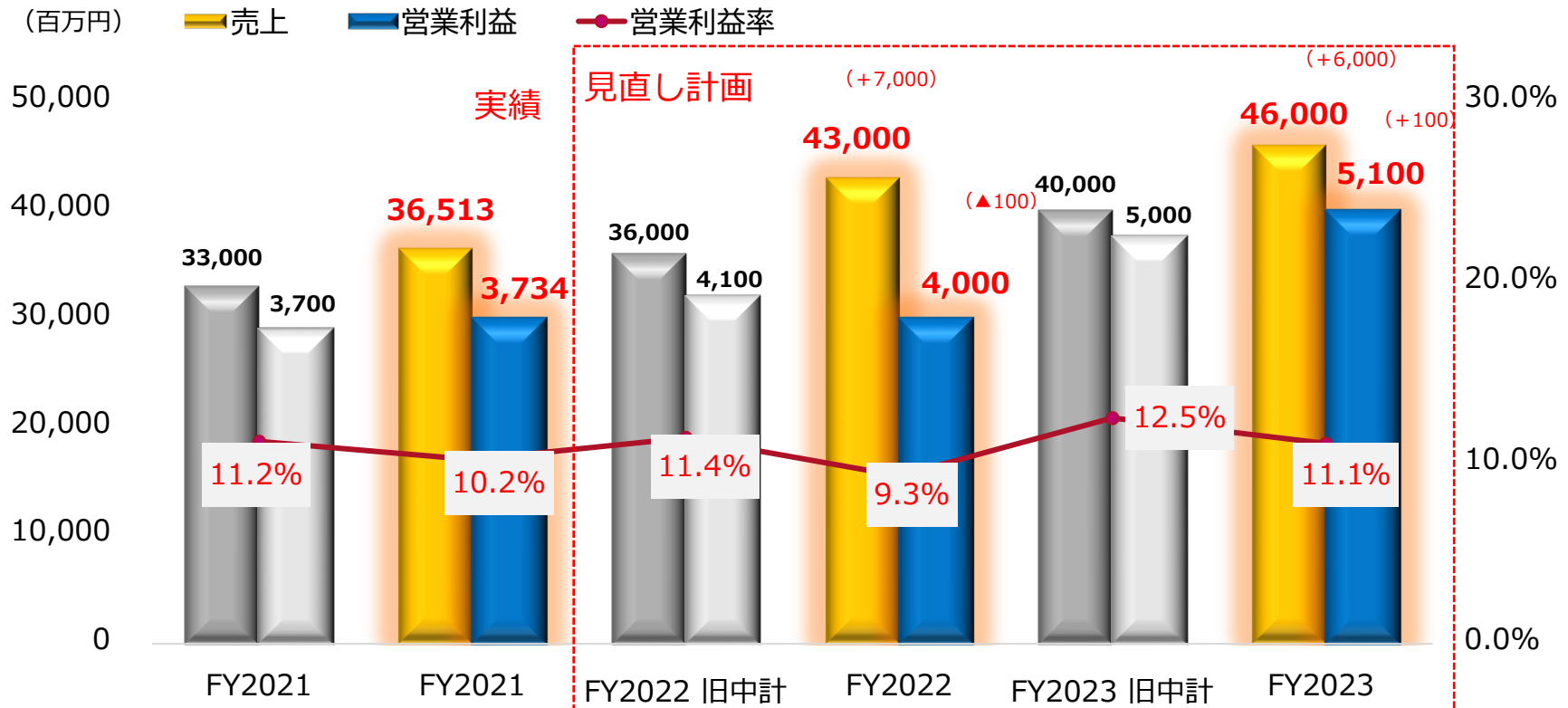
以下の事項は業績計画に織り込み済み

① FY2021に連結子会社化したPSP株式会社と株式会社NOBORIの経営統合による影響

統合会社のストック型ビジネスへの転換、医用画像システム（PACS）のクラウドシフト推進

※クラウドシフトの推進は、短期的な売上・営業利益の減少要因となるが、将来を見据えた経営判断として断行を予定。

② 本社移転費用としての運送費や廃棄費用、新オフィス造作時の二重家賃など（FY2022に約2億円）





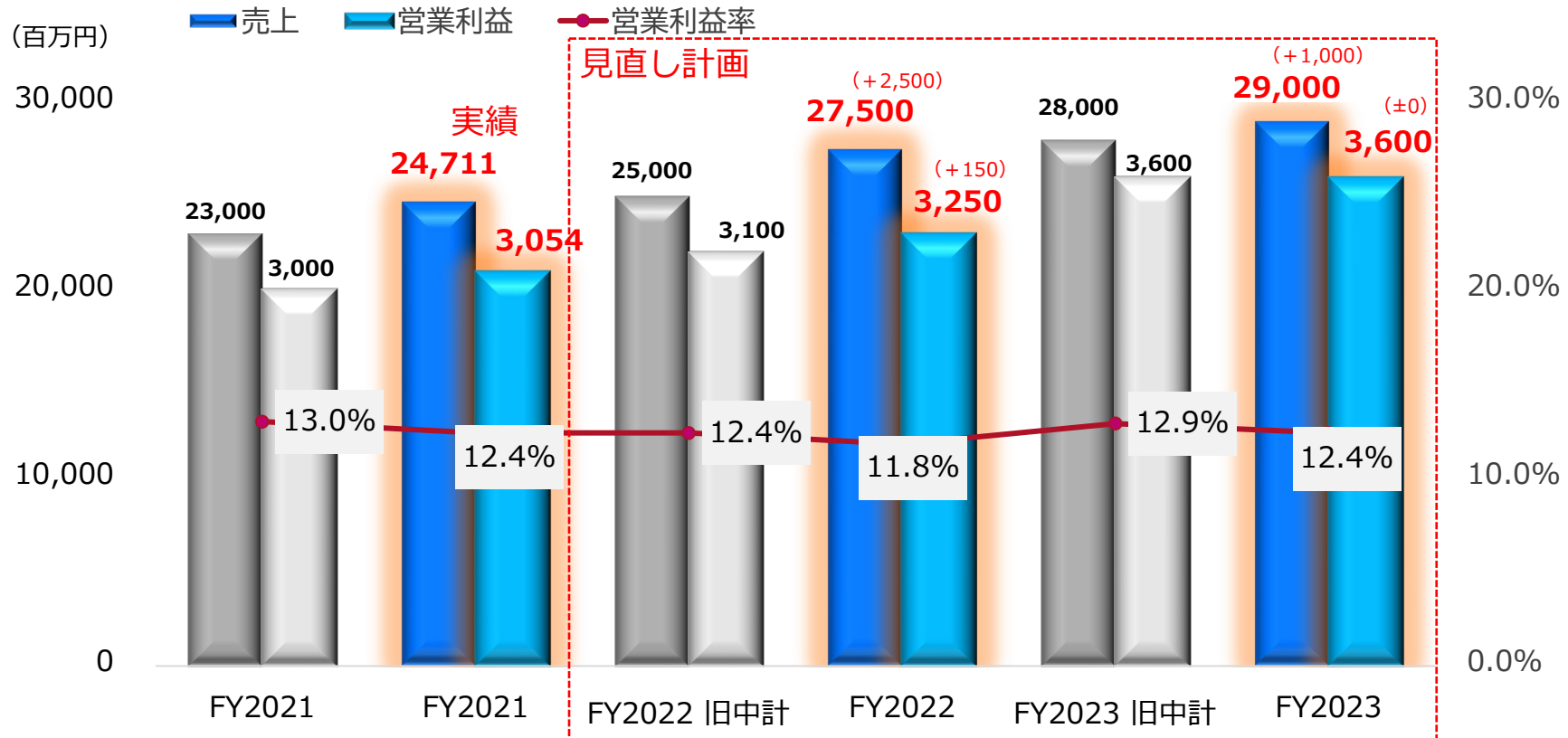
FY2022 5月に見直した業績計画を据え置き

(FY2022 5月の見直し内容)

サイバーセキュリティ対策製品・サービスに対する継続的な需要の高まりを考慮して計画を見直し。

- ◆ 売上収益：クラウド型のセキュリティ製品の需要トレンドを考慮した計画の見直し
- ◆ 営業利益：統合監視サービスの (TPS) の需要トレンドを考慮した計画の見直し

※本社移転費用を吸収した上で、営業利益の計画値を上方修正。



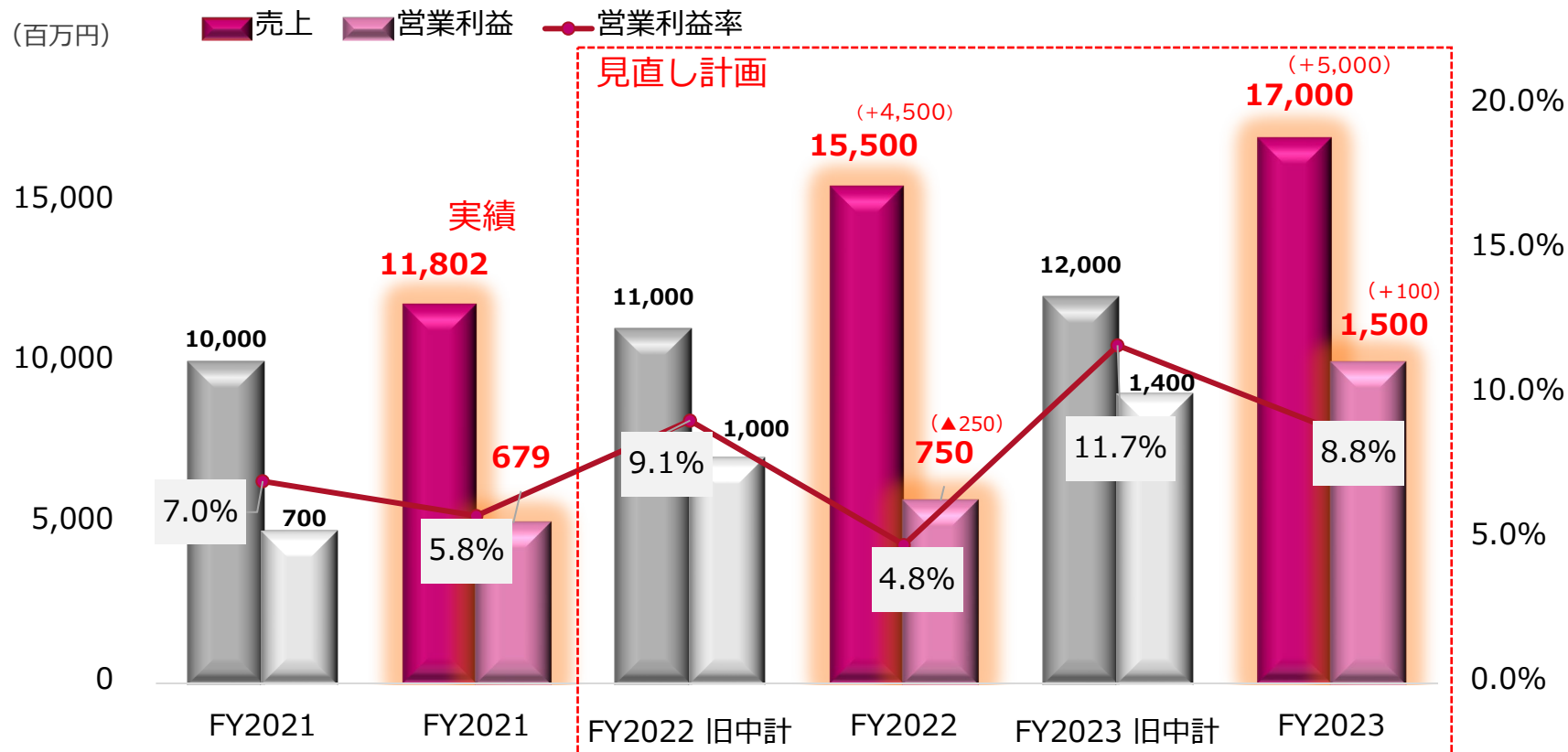


FY2022 5月に見直した業績計画を据え置き

(FY2022 5月の見直し内容)

本社移転費用と医用画像管理システム (PACS) のクラウドシフトの推進を考慮して計画を見直し。

- ◆ 売上収益：PSP株式会社の連結による増加
- ◆ 営業利益：本社移転費用の発生
教育事業に対する投資の継続
旧PSP株式会社の既存導入先施設に対する **クラウドシフトの推進**





<本資料の取り扱いについて>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあり得ます。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや確実性がありますことを、予めご了承ください。

<お問合せ先>

テクマトリックス株式会社 経営企画課 TEL:03-4405-7802 ir@techmatrix.co.jp